# つかさどる人のNEWS

NO.37
2015.10 発行

（公財）日本生態系協会
グランドデザイン総合研究所
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
tel.03-5951-0244 http://www.ecosys.or.jp

## 地域の再生は「歩いてみたくなる美しいまちづくり」から

立ち止まって眺めたくなる風景が地域の魅力をさらに高めます（北海道黒松内町）

**いま日本では、**急激な人口減少への対応が大きな課題となっています。

このまま人口の減少が進むと、担い手を失って放置される農地や森林などの「使われなくなった土地」はさらに増える可能性があります。また、維持更新に必要な予算が確保できずに、放置され老朽化する道路・橋・上下水道などの社会インフラの増加や、福祉・教育などの公共サービスの縮小など、その影響は様々な形で私たちの暮らしに及ぶことが予想されます。今後、多くの地方自治体では、人口の減少に伴う財政基盤の悪化が、市民の暮らしを支える社会インフラや公共サービスの存続を揺るがす事態を招くことも考えられます。

しかし、人口の減少に伴う地域の変化はチャンスでもあり、従来にはない新たな視点からのまちづくりの可能性が開けます。それは、その地域ならではの自然や気候風土、歴史や伝統のある街並みなどの「地域の個性」を活かして、持続可能な美しいまちを実現するという視点です。

そこで今号では「歩く」をキーワードに、地域の個性が輝く、持続可能な美しいまちを実現するための方策を整理しました。

## 海外レポート　順天湾（スンチョン）湿地

韓国の順天市では地域の特徴を活かして、環境と経済を結びつける様々な取組が行われています。そのなかの一つ、順天湾の内陸に広がる水田地帯では、農家と連携してナベヅルの越冬地の整備を進めています。順天湾はラムサール条約湿地に登録されている広大な河口干潟で、ナベヅルをはじめ約 200 種の鳥類が訪れる渡り鳥の楽園です。

市では渡り鳥が生息する環境を守るため、電柱や電線を撤去し、湾に隣接する区域を特別保護区に指定して、保護区内で農業を営む農家との間で、無農薬農法による水稲栽培の推進、冬季の保護区内への立入禁止などを定めた管理契約を取り交わしています。また、管理契約に伴う農家の経済的な負担を軽減するため、保護区内の水田で生産された米を市が高値で買い取り、ブランド米として販売するなどの支援も行っています。そのほか、順天湾の内陸にある大垈洞（テテドン）一帯の農地では、観光客の誘致を目的に、栽培する作物の種類や品種の組み合わせ方を工夫して彩りのある美しい景観をつくるなど、より付加価値の高い農業を目指した取組が行われています。

様々な取組の結果、順天湾周辺に飛来するナベヅルは年々増加し、今では韓国で最大規模の越冬地を形成するまでに豊かな自然が回復しました。また、地域の特徴である「湿地」の自然を活かしたまちづくりが評判を呼び、同地域は年間300万人を超える観光客が訪れる一大観光拠点にもなりました。その結果、飲食や土産物などの関連産業の売上げが増えるなど、地域の経済にも好影響が及んでいます。

同地域の取組は、自然と経済が調和する持続可能な地域づくりのモデル事例として国内外の注目を集めています。

順天湾（韓国／順天市）

## 国際シンポジウム　地方創生に求められるもの ～ 地域と世界を結ぶ ～ を開催します。

「このままでは、近い将来地方自治体の約半数が消滅するかもしれない」

『地方創生』には、経済、社会、自然環境のバランスを持続可能とすることが重要です。その鍵は地域独自の美しい自然や文化です。自然と共存する持続可能な自治体づくりをテーマに、『地方創生』を考えるシンポジウムを開催します。

ツル類の越冬や湿地観光を目玉に年間300万人が訪れ、“自然との共存による地域おこし”の成功例として国際的に注目を集める韓国順天市の趙忠勳（チョ・チュンフン）市長を特別ゲストとしてお招きしてお話をいただく予定です。また、国内より徳島県知事のほか、宮城県大崎市、栃木県小山市、新潟県佐渡市、兵庫県豊岡市、島根県出雲市、山口県周南市、鹿児島県出水市の各市長をお招きして、地方創生の最先端の取組についてお話しいただきます。

**開催日時**
平成27年11月20日(金) 13:00-18:15 (開場 12:30)

**会場**
イイノホール　東京都千代田区内幸町 2-1-1 飯野ビルディング 4F
※詳しくは同封した案内をご覧ください。

グランドデザイン総合研究所は、自然と共存する美しいまちづくりの方法を、行政や議会、市民に提案するシンクタンクです。
お気軽にご連絡ください。

**（公財）日本生態系協会**
**グランドデザイン総合研究所　tel. 03-5951-0244**

- 50 年先、100 年先の世界にひとつのグランドデザイン作成
- 海外の先進事例に関する情報提供
- 国の事業を活用した自然と共存する持続可能なまちづくりの提案
- 海外視察ツアーの企画・コーディネート
- 行政職員や市民向けの研修会や講演会への講師派遣
- あなたのまちをテーマとした国際シンポジウムなどの企画・開催

禁無断転載

# 「思わず歩いてみたくなる美しいまち」を形にする３つの視点

美しい風景は、地域の健全な自然を基盤にして、
自然と調和の取れた街並みと一体となって形成されます。
自然には地域差があるため、
見た目には似ている自然であっても、
生態系やそこにすむ生きものの種類や遺伝子には違いがあります。
この地域差によって、その地域らしい自然や風景などの「地域の個性」が生まれます。
地域の個性を活かした美しいまちを実現するうえで、
人口の減少などで使われなくなった土地は、
国土保全や環境保全といった観点からも
その地域本来の森や湿地などの自然として再生し、
健全な生態系を回復させることが重要です。
ここでは、地域の個性を支える健全な自然が持つ、
美しさや魅力の見せ方を整理しました。

利用頻度が少ない高速道路を撤去した跡地に散策路を整備し、沿道を自然再生した事例（英国／ハンプシャー郡）

### 拠点施設を起点にまちなみを歩くコースを整備した事例（北海道黒松内町のフットパス）

一般を対象にしたフットパスツアーを継続して開催
提供：黒松内フットパスボランティア

緑色の足跡マークは公有地を、赤色は私有地を通過するコースであることを表す

北海道黒松内町では、公共施設を起点にした4つのフットパス（全長は2～10km）を整備し、各コースの見どころやトイレ、飲食店などの情報を記載したマップを作成し、インターネット上でも自由に閲覧できるようにしています。

また、地域のボランティアによるフットパスの維持管理や一般向けツアー、ガイドを担当するボランティアスタッフの技能向上のための研修などが年間を通じて行われています。

視点その１

## 美しい風景を見せる工夫

自然が健全な状態にあることで私たちは、おいしい空気や水、食べ物、快適な気候など、生活に欠かすことのできない多くの恵みを受けています。

また、健全な自然は、四季折々に変化する彩りのある風景、鳥や虫の鳴き声、風にそよぐ木々の葉音、草花の香りなどの、地域の個性を彩る様々な魅力を持っています。美しいまちをつくる際には、健全な自然が持つこうした魅力を引き出す工夫が求められます。また、地域の個性を支える基盤となる自然を健全な形で保全・再生したうえで、持続的に利用していく視点も不可欠です。

その際に、地域の自然特性を無視し、見た目の美しさだけを優先して園芸種や外来種を用いるなど、地域の生態系に影響を及ぼすおそれのある「その地域には本来存在しない自然」をつくらないようにすることが重要です。また、建築物などを新築・改築する際には、色や形、大きさなどを周囲の自然に溶け込ませるなど、自然と調和した美しい風景をつくる工夫が重要です。さらに民家の庭先などでも、自然や街並みとの一体感が出るような、ちょっとしたおしゃれをすることで、まちの魅力が高まります。

### 美しい自然や景観の魅力を掘り起こす工夫（関東・水と緑のネットワーク拠点百選）

関東全域を対象に、将来に残したい自然や景観の拠点を公募し、当該地域の保全活動に取り組む団体等を助成する制度「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」（一般社団法人関東地域づくり協会と当協会の共催事業）では、これまでに関東地方の97拠点を選定し、各拠点で多様な主体が行う活動を通じて、身近な自然の魅力や価値を高める取組の支援を行っています。

こうした取組も、地域の美しい自然や景観の掘り起こしやPRに有効な手法です。

草刈りや野焼きにより維持される江川流域の湿地（埼玉県上尾市・桶川市）
提供：NPO法人エンパンスネイチャー荒川・江川

レンゲツツジが一面に広がる甘利山。ユネスコエコパークにも登録されている（山梨県韮崎市）
提供：NPO法人甘利山倶楽部

視点その２

## 歩いてみたくなる「しかけ」をつくる

美しい自然や風景、歴史や伝統ある街並みはそれ自体が集客力を持つ観光資源ですが、周辺の観光施設との距離が離れている、現地までのアクセス方法や現地の案内情報が不十分、などの理由で観光資源としての魅力を十分に伝え切れていないケースも多く見受けられます。点在する観光資源を活かして新たな観光客を呼び込むしかけとして最近注目されているのが、フットパス※です。

既に北海道や山形県などのほか、九州地方の7県を散策路で結ぶ九州自然歩道などの先行事例があり、自治体や農家、NPOなどの地域の多様な主体による維持管理やツアーなどが行われています。近年では、長野県信濃町などが行っている健康管理や食育を組み合わせた森林散策など、医療や福祉分野における利活用の取組も始まっています。

※フットパス：イギリスを発祥とする「森林や田園地帯、古い街並みなど、昔から地域にあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと（Foot）ができる小径（Path）」。美しい風景を見せるために、計画的にベンチや広場、トイレなどの休憩施設を配置し、地域の飲食店や宿泊施設と連携したツアーなども行われています。

視点その３

## 地域の強みを把握し、価値を高める

見どころをまわるフットパスが整備され、来訪者の滞在時間が長くなると、食事や宿泊などの利用を通じた地域経済への様々な波及効果が期待できます。

観光客に向けた情報発信の際に重要なことは、地域の強みを把握して、その魅力や価値を高める創意工夫を行うことです。地域の強みとは、例えば新緑や紅葉、雪原などの美しい風景、渡り鳥の飛来、アユやサケの産卵、お祭りなどの年中行事、農産物や海産物の収穫体験などの「そこに行かなければ体験できないこと」です。それらを掘り起こし、その魅力を体験できる時期（旬）にあわせて情報を発信することが重要です。限られた時期にその場所でしか体験できない「限定性」は、その地域を訪れたり、特産物を購入する大きな動機になります。また、「限定されたものにすること」は、地域で生産・提供される商品やサービスの経済的な付加価値の向上にもつながります。

その際に、それらの地域の様々な魅力を生み出す基盤となる自然を健全な状態で守り、持続的に利用することが重要なのは言うまでもありません。